

授業科目名	基礎看護学臨地実習Ⅱ	担当教員	◎有家香、休波茂子 渡邊八重子、鶴沢淳子
必修	開講年次：2年後期	単位：2単位	授業形態：臨地実習 90時間

【授業概要】

入院中の患者を一人の生活者としてとらえ、その生活や環境について学ぶ。日常生活に関わる援助を通して、看護の働き・機能について学ぶ。健康上に問題がある個人（患者）を対象に、人間関係を保ちながら、患者の健康状態のアセスメントを通して、健康と生活に関わる問題を明らかにする。さらに、その援助過程を学ぶことにより、対象理解を深め、看護職者としての態度を養う。

【授業目的・目標】

1. 健康上に問題がある患者の生活と環境について理解することができる。
2. 患者との関わり（相互作用）を振り返ることで、円滑な人間関係を築く過程について理解する。
3. 患者の健康障害に焦点をあて、アセスメントを通して健康や生活に関わる問題とその援助について明らかにすることができる。
4. 患者にとって必要な援助を実施することにより、看護の働き・機能について理解することができる。
5. 患者への看護を通して看護職者としての態度を養うことができる。

【履修条件】

看護学概論、基礎看護技術論、日常生活援助論を取得している。治療援助論、看護展開論ⅠⅡ、基礎看護学臨地実習Ⅰを修得していること

【授業計画】

実習1日目 オリエンテーション（実習病院の概要）、カンファレンス
 実習2～9日目 病院実習－受け持ち患者を通して看護を実践－
 実習10日目 実習の振り返り、まとめ、面接評価

【教科書】

指定なし

【参考書】

基礎看護学の使用した以下のテキストを参考書とする。

1. 志自岐康子他編集（2017）基礎看護学① 看護学概論、メディカ出版。
2. 志自岐康子他編集（2017）基礎看護学③ 基礎看護技術、メディカ出版。
3. 深井喜代子編集（2017）新体系看護学11 基礎看護学②看護技術Ⅰ、メジカルフレンド社。
4. 深井喜代子編集（2017）新体系看護学12 基礎看護学③看護技術Ⅱ、メジカルフレンド社。

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度による評価（60%）、課題レポート（25%）、実習態度（10%）、カンファレンス（5%）

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：基礎看護学で学習した看護展開論Ⅰ・Ⅱ、日常生活援助論などの学びを振り返りまとめる。看護技術（バイタルサインの測定、日常生活の援助技術）については、安全・安楽に実施できるよう事前学習する。

事後学習：1日の実習終了後に各自体験したことを振り返り記述する。実習での学びを振り返り課題レポートとして記述する。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅸ. あらゆる対象に向けた包括的な看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録については2年後期（12月中）に学生個人に返却する（掲示により連絡）。

【備考】

- ・看護展開論Ⅰ・Ⅱで学ぶ「看護過程」と「ヘルスアセスメント」について理解をしておく。
- ・基礎看護学臨地実習Ⅱの学びは3年次の専門分野Ⅱの基礎となる。